



2021年（令和3年）3月2日 // 火曜日 // 第7号

# プレジール通信

“プレジールのいま”を（不）定期的にお伝えします。

## 宣言解除、間近?!

弊社のある東京は、1月に2回目の「緊急事態宣言」が発令され、この2か月の間、

- ① 不要不急の外出は控えましょう。
- ② 昼夜問わず会食は控えましょう。
- ③ 午後8時以降の外出は控えましょう。

等と要請されました。手洗い、うがい、マスク、密を避けなければならない日常は、宣言の有無に関わらず「習慣」となりました。

「このご時世ですし…」と実際にお目には掛かっていた商談が急減し、リモートワークが当たり前となった証なのか、都内を走る日中の電車は明らかに空いています。日本でも徐々にワクチン接種が本格化して行くようですが、ワクチン接種が既に始まっている国の様子を見ても、引き続き「コロナ禍での生活様式」が変わる事はないように思えます。コロナの抑え込みに成功している台湾やシンガポールなどの国々が実に輝かしく見えますが、皆さまの生活圏内の様子は如何でしょうか？

さて、2021年のバッグ業界やファッション業界は一体、どうなるのでしょうか。

今までのセオリーはもう通用しないのだろうな、と言う事を前提に、今まで「??」と思われていた事がセオリーになるかも知れないと考えています。生活も仕事も「家」で済むようになり、気分転換が余計に必要となりました。外に出たくなります。ここで、ファッションの出番です。

例えばバッグ。極論かも知れませんが、

- ・今までのような大容量のバッグは必要ない
- ・ビジネスバッグは必要ない

となり、近場への外出用に手ごろな洒落たバッグが必要になって来ているはず。抗菌仕様や消毒できる素材がより好まれるようになるかも知れません。世界的には、SDGsの観点からも地球環境に優しい素材等が好まれて選ばれる傾向が強くなっており、日本でもそうした流れが急速に広がるでしょう。ユニクロをはじめとした製造直販ブランドは別として、大量生産の時代は恐らく既に終焉しています。

さあ皆さま、弊社プレジールの出番です。弊社では小ロットでのバッグの制作を承れます。トートバッグや前号で紹介した、ポケットがわりにお使い頂ける弊社オリジナル商品「TAMOTO」、「ミナレス」のような、小ぶりのバッグの制作も承ります。

バッグ制作のご相談の際は、引き続き、どうぞお気軽にお知らせ下さい。



←ポケットがわりにお使い頂ける「TAMOTO」



↑利休バッグ 3点どめ持ち手が特長です。

## コロナ禍。どんなバッグの制作を？

世界中が「コロナ禍」と呼ばれる世の中となって1年。和装業界や裂地バッグ業界で勇気付けられる「良い話」を耳にする事はめっきり減っています。それでもおかげ様で何とか営業を続けられている弊社。ご多分に洩れず売上は大幅に減っていますが、幸いな事に、月間バッグ制作数が「0」と言った最悪な事態に見舞われる事は無いまま経過しています。では、この1年でどのようなバッグの制作依頼を請けたのか？今号では明らかにしたいと思います。

「コロナ禍」以前は、

- ・和装でも洋装でも使えるバッグ
- ・トートバッグ
- ・高級口金を使ったバッグ
- ・革素材と帯地を合わせたバッグ

の制作をご依頼頂くケースがほとんどでした。和装市場の縮小傾向は、「コロナ禍」が始まるはるか前から続いているもので、そんな中で、エンドユーザーの方々の、装いを問わず使いやすいバッグを買い求めたいと言うご要望が年を追うごとに強くなっているように感じられていました。

ところが、この1年で制作のご依頼を頂いていたバッグのほとんどは「利休バッグ」でした。弊社では「ほうらいバッグ」と呼んでいるバッグで、和装業界では「超定番」と位置付けられているバッグ。弊社創業者で私の祖父が、その開発に大きく、深く関わったバッグであり、

弊社にとっては、礎的な大切なスタイルのバッグです。

実はここ数年、「利休バッグ」以外のバッグを提案して欲しいと言われる事の多かった弊社にとっては、「利休バッグ」を作って欲しいとのお依頼を数多く頂くようになるとは想像もしておらず、意外な事でした。各社ご担当者様それぞれの思いの詰まった「利休バッグ」は、それぞれが三者三様で、どれもこれまでに無かったような、新しいスタイルを纏った「利休バッグ」となっています。それら「新しいスタイルの利休バッグ」の制作に深く携わる事が出来ている事は、とても光栄な事です。

どのバッグもOEM（相手先ブランド名製造）となるため、具体的な事例をご紹介する事は出来ないのですが、雑誌をはじめとした各メディアで取り上げられているバッグもあるようですので、どこかで弊社が手掛けさせて頂いたバッグを既に目にしておられる方がいらっしゃるかも知れません。

コロナと共に生きて行く世の中は、これからも続きます。弊社でも今、出来る事をまさに「手探り状態」で探っています。バッグに関するアイデア等を温めつつある皆さま。弊社が制作面でお役に立てます。緊急事態宣言が解除となれば、徐々に対面での打合せも可能となるはず。ご相談のお声掛けを、心よりお待ちしております。

ご相談のお声掛けを、心よりお待ちしております。